

WMO 福島第一原発事故に関する気象解析についての技術タスクチームでの気象庁
領域 ATM 実験
JMA's regional ATM calculations for the WMO Task Team on the meteorological analyses for Fukushima Daiichi NPP accident

斉藤 和雄^{1*}, 新堀 敏基¹, Roland Draxler²
Kazuo Saito^{1*}, Toshiki Shimbori¹, Roland Draxler²

¹ 気象研究所, ² 米国海洋大気庁
¹Meteorological Research Institute, ²NOAA Air Resources Laboratory

原子放射線の影響に関する国連科学委員会 (UNSCEAR) は、2011 年 5 月に行われた第 58 回総会において、2011 年 3 月に発生した東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災) による福島第一原子力発電所事故に関する放射線被曝のレベルと影響に関する評価報告書を作成することを決定し、世界気象機関 (WMO) に対し協力を求めた。これに対応するため、WMO は「福島第一原発事故に関する気象解析についての技術タスクチーム」を設置し、大気移流拡散モデル (ATM) を動かすための気象解析値の用意と、事故期間中の放射性物質の輸送・拡散・沈着に関わる大気条件の報告書を作成した。ここでは、上記タスクチームにおける気象庁の貢献と領域 ATM の改良と実験、及び Cs-137 の沈着と濃度時系列の観測に対する検証について報告する。

キーワード: 福島第一原発, 気象解析, WMO タスクチーム, 領域 ATM
Keywords: Fukushima Daiichi NPP, Meteorological analyses, WMO Task Team, regional ATM